



5.FD・SD ジョイントセミナー

平成23年度FD・SD ジョイントセミナー報告

平成 23 年度 FD・SD ジョイントセミナー報告

総合教育研究センターFD 部門 渡部芳栄

今年度開催セミナーのテーマ

総合教育研究センターFD 部門では、人材養成プロジェクトチーム及び FD プロジェクトと協力し、平成 23 年度において 2 回の FD・SD ジョイントセミナーを開催しました。テーマは、第 1 回を「ICT 教育」、第 2 回を「教職協働」としました。「ICT 教育」は政策的にも求められていますし、また本学の中期計画でもその整備を謳っています。「教職協働」についても、中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で教職員の共通理解とその職能開発の重要性が述べられています。今年度は、「今大学に求められているもの」をテーマとして設定いたしました。

開催報告

第 1 回 FD・SD ジョイントセミナー

タイトル：教員のための実践的 ICT 活用法—クリッカーと Twitter による授業の活性化から学習管理システムによる授業時間外学習の支援まで—

日時：平成 23 年 11 月 2 日（水）15 時～

講師：岡山大学教育開発センター准教授 天野憲樹氏

参加人数：24 名（学外からの参加者 1 名を含む。）



岡山大学の天野先生をお招きし、3 つの ICT 機器（ソフト）を利用した実践報告を頂きました。「第 1 部クリッカー」では、準備方法・集計方法をスクリーン上で実践され、参加者も交えて実際の集計過程を体験できました。「第 2 部 Twitter」では、誰でも気軽に登録できる Twitter を利用し、学生の声を聞く授業実践の報告がされました。

「第 3 部 WebClass」では、授業外の学習を実質化するための LMS（学習管理システム）について、実際のデータや Web サイトを用いながら、何ができるのか説明がなされました。

ICT 教育関係のフォーラム等では、手放して ICT 教育を推進する場面をよく見かけます。このセミナーでは、それぞれの機器やソフトを使ってできることとともに、できないことや欠点なども合わせて解説頂きました。ICT 教育は導入すればそれでいいわけではなく、長所と短所をよく見極めながら利用する必要があります。天野先生は情報科学のご専門ですが、そのあたりも強調されていたのが印象的でした。参加者へのアンケートでも、「実際に実践している報告で分かりやすかった」という感想の他、「メリットとデメリットの両方が分かって、参考になった」という感想が見られました。

第2回 FD・SD ジョイントセミナー

タイトル：FD・SD を楽しもう—Q-Links が展開する教職協働—

日時：平成 23 年 12 月 21 日（水）15 時～

講師：九州大学教育改革企画支援室准教授 田中岳氏



参加人数：24 名（学外からの参加者 2 名を含む。）

九州大学の田中先生をお招きし、ご自身が中心となって九州地域で活動している Q-Links (FD・SD ネットワーク) のご経験からコンソーシアム・FD・SD・教職協働など幅広くお話を頂きました。独特の話術から出される「Q-Links は組織と組織がつながるのではなく、人と人がつながるのです」「違っているから気づくことがある」などの力のこもった言葉は、多くの参加者を魅了していました。

また、Q-Links (Q-Lab) で取られている「立場や大学の異なる方の対話を重視しそれを促進（ファシリテート）する」という方法は、従来の研修とは違った学び（気づき）の方法として学ぶべきところが多いものと感じました。参加者からも「インパクトがあった」「これまで思っていた FD・SD とは違っていて面白かった」といった感想が寄せられました。

また、セミナーの翌日には、田中先生と本学若手教職員（教員 2 名、職員 8 名）との間で座談会が行われました。田中先生は大学職員をされていた経験をお持ちで、若手職員にとって有意義な時間になったと思います。最後に行われたボールを使ったゲームは、立場や年齢を超えて一体となって考えることや、発想の転換・イノベーションの必要性を教えてくれるもので、教職協働・大学運営へのヒントを与えてもらった気がします。



次年度への課題

今年度は主に政策動向に注視しテーマを設定しましたが、次年度においては、学内教職員や学生・コンソーシアム提携校・地域等の要望を汲み取りながらテーマ設定をしたいと考えています。「こういう企画をしてほしい」というご要望は遠慮なくお寄せ下さいようお願いするとともに、総合教育研究センターFD 部門としても幅広くご意見を聞く機会やシステムを創出できるよう考えて行かなければならぬと思います。

(総合教育研究センター『しのぶそう』No.32 から加筆修正して転載)

平成23年度 福島大学FD・SDジョイントセミナー

第1回 FD・SDジョイントセミナー

教員のための実践的ICT活用法

—クリッカーとTwitterによる授業の活性化から
学習管理システムによる授業時間外学習の支援まで—



日時：平成23年11月2日(水) 15時～

場所：総合教育研究センター棟1階「特別教室」

講師：岡山大学教育開発センター准教授

天野憲樹氏

概要：そのニーズや有効性は分かっていても、今一つ掴めないICT教育。情報科学の専門家が、分かりやすく解説します！

講師紹介：岡山大学において、ICT技術を利用した教育改善、学生参加型FDの推進に取り組んでいる。

第2回 FD・SDジョイントセミナー

FD・SDを楽しもう

—Q-Linksが展開する教職協働—



日時：平成23年12月21日(水) 15時～

場所：総合教育研究センター棟1階「特別教室」

講師：九州大学教育改革企画支援室准教授

田中 岳氏

概要：Q-Linksにおいて、大学や立場といった垣根を超えた「対話」で何が起こっているのか？必聴です！

講師紹介：九州・沖縄地域におけるFD・SDネットワーク（Q-Links）づくりにおいて、その企画段階から実施に至るまで総合的な立場から現場を推進している。

福島大学総合教育研究センターFD部門、人材養成プロジェクトチーム、
FDプロジェクト

問い合わせ先：総合教育研究センター事務室

電話：024-548-8110 FAX：024-548-6631

URL：<http://www.educ.fukushima-u.ac.jp/rgc/>

E-mail：kyoiku-s@adb.fukushima-u.ac.jp

*各セミナー 先着50名まで、前日までに、事前申し込みが必要
(総合教育研究センター事務室まで)



6.FD 宿泊研修

平成23年度FD宿泊研修記録



FD 宿泊研修スケジュール

全体テーマ：福島大学はどう変わるべきか？

開催場所：二本松市岳温泉『あづま館』

開催日：10月1日～2日

10月1日（土）

10:15 経済経営学類棟ロータリー前集合

10:20 出発（あづま館送迎バスにて）

11:00 あづま館着

11:30 開会行事

進行役：総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

実行委員会説明：教育担当副学長 中村民雄

グループ分け

12:00 昼食

13:00～16:00 [第1セッション] テーマ別話し合いと報告会資料作成

16:00～16:30 休憩

学長挨拶：学長 入戸野修

16:30～18:15 [第2セッション] 報告会と全体討論

18:30～20:30 夕食・懇親会

10月2日（日）

7:00～8:50 朝食

9:00～10:30 [第3セッション] 『学びのナビ』改訂案の話し合いと簡単な報告

10:35～10:45 全体のまとめ：総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

10:45～10:55 講評：教育担当副学長 中村民雄

11:00 あづま館出発（あづま館送迎バスにて）

12:00 大学着

FD宿泊研修に参加しての感想・報告文

共生システム理工学類4年 安濃 瞳

今回のFD合宿を通じて異なる立場の人が同じテーマについて話し合うことの重要性を改めて感じるとともに、様々なことを学びました。大学生活に不安と期待を抱いていた入学当初のことを思い出し、1年生のうちに参加していたらもっと新鮮な意見が出てきたのではないかとも思いました。

私たちの班は学士課程教育という大きなテーマの中で教員養成について的を絞って話し合いました。教員免許取得のサポート体制に関する悩みや意見は学類によって違いがありますが、考える立場が異なっていても支援のあり方の根底となる部分は同じなのかなと感じました。第2セッションでの各班の発表でも、学生と先生との関係性やコミュニケーションをはかるための対策等内容は色々ありましたがみんなが考えている理想の大学の姿は似ていると思いました。実現のためには学生が求める側と求められる側の2役を担っている状況で、目の前の課題をどう解決すべきか、今回の活動のようにまず隔たりをなくして意見を出し合わなければ問題の解決に至らないのかもしれないと思いました。

授業や就職活動を始めとし、大学は自由だからこそ自分で必要な情報を取捨選択するスキルを身につけるためのチャンスがたくさん眠っていると思います。ただそのチャンスを多くつかむためには個人が強い意志を持って努力することの他に、些細なことでも受け入れる体制つまり後押しが欠かせないと考えます。サポートの仕方は学生のニーズに応じて様々ですが、私は個人でも出来ることとして今までの大学生活を振り返り、自分の経験談を伝えることを意識して1日1日を大切に過ごしていきたいです。

共生システム理工学類4年 山田志保

FD合宿をあえて一言で表現するなら「垣根のない交流の場」だと思う。

大学という組織には、教員、職員、学生といった明確な立場が存在する。それぞれの立場があるからこそ成り立つ組織でもあるが、立場ゆえに意見や考え方が偏ることは否めないだろう。大学をより良くするためにには当然ながら偏った考えでは改善することはできない。現状を維持することはできるかもしれないが、より良い大学を目指すならば様々な意見や考えを討論し結論を出すことが必要だろう。

今回行われたFD合宿では、お互いの立場を理解し考慮しながら有益な討論ができた。少人数グループで、しかも学生だけではなくどのグループにも教員や職員の方々が加わり討論したことはこの合宿の特徴でもある。そしてこの特徴を有効に活用し、大学をより良くするための意見が多数発表された。きっと、教員だけでも職員だけでもまた学生だけでも出されなかつた意見だっただろうと思う。

FD合宿は、短期集中型の討論だった。長期的にだらだら行うよりも活発な討論ができたと思う。また、FD合宿には各学類の学生が参加していたため多種多様な意見があった。同

じ福大生でも学類が異なるだけで考え方や大学に対する不満も異なっていた。このことを考えると今後の FD 合宿にも、それぞれの学類の学生と教員が参加することでよりよい討論ができると考える。

人間発達文化学類 2年 飯澤 夏季

FD 合宿には牧田先生のお誘いで参加しました。

牧田先生にはそんなに堅い合宿ではないから、とは聞いていたのですが、当初はちょっと緊張し身構えていました。しかし始まってみると、話し合いはそんなに堅苦しくなく、だからこそ様々な意見が飛び交ったように思いました。ゆるい環境でなんでも言うことができたので、他の人の意見を聞き、さらに自分の考えをより良いものにしていくことができました。料理も温泉もそのあとの懇親会も楽しかったです！

楽しく泊まれて、自分の大学について、職員さん・教員さんを前に話し合って意見が言えるという本当にいい機会だったと思います。

ありがとうございました。

人間発達文化学類 2年 大矢直輝

今回の FD 合宿での一番の収穫は、学生が教員や職員とコミュニケーションが取れたことだと思います。この合宿に参加しなければ職員の方とこんなに話をする機会はなかったと思います。やはり、大学では学生と職員との間には壁があるように感じられ、学生課や教務課に相談しづらいという人も多いはずです。ですが、少なくとも今回参加した学生は以前よりも窓口に行きやすくなつたのではないかと思います。それだけでも一つの成果だったのではないでしょうか。

実際に、大学の環境改善の話し合いをすれば、たくさんの意見が出てきて、またその意見は皆が共感するような意見でした。それだけ、普段大学に対して皆同じような考えを持っているということがわかりました。皆が普段思っていたことを公の場で意見として出し合えたことは大変貴重な機会だったと思います。また、学生から大学への要望というのが思っていたよりもたくさん出てきたことに驚きましたが、中には学生が甘えすぎかなというような意見も多々ありました。大学という場は、学生が自ら学ぶ場であるということを改めて考えさせられたし、これまでの学びの姿勢を反省するきっかけにもなりました。

今回の FD 合宿は、大学としてもさまざまな立場からさまざまな意見が聞けて成果があつたと思いますが、学生個人としても大人と会話する機会ができて貴重な経験でした。大人といろいろ話をしたいという学生は、まだまだたくさんいると思います。合宿に限らず、学生と教員や職員が関わって意見を交換し合うような機会を、ぜひこれからも作っていたいと思います。そして、その取り組みがよりよい福島大学に繋がつていったらなと思います。

人間発達文化学類 2 年 門脇賢吾

今回の FD 合宿を通して一番に思いつくことは「実は教務課は優しい！」ということではなく（笑）、福島大学には問題が多数ある点、またそれを学生や教職員が認識しているにも関わらず改善されない点、学生と教職員の考えに違いがある点です。特に最後の学生と教職員の考えに違いがある点については違いがありすぎてかなりショックを受けました。この違いは時代の違いとや教員免許持っていないからねなどで言いくるめられた場面がありましたが教育者の立場としてその考えには納得いきませんでした。

今回の FD 合宿で自分と教職員の方々との距離は確実に近づいたと思います。このような機会をこれからも作っていってほしいし、私も学生代表としてその制作に携わりたいと強く思っています。もし何か手伝う事などあれば言ってください！（ただし、現在は学祭で忙しいので・・・）とりあえず今回の FD 合宿は楽しくて充実していて最高の成果が得られたと思います。ありがとうございました！

人間発達文化学類 2 年 糸澤摩美

合宿の 1 日目では、話しあう 3 つのテーマを定め、各グループに分かれて一つのテーマについて話しあうという形式で話し合いが行われた。私は「授業評価アンケート」について話し合いに参加した。

グループの中で出た意見には、「アンケートを行う目的がわからない」「アンケートに答える意味が無いと感じる」「書く時間がない」というようなものがあった。

このような問題を解決するために、アンケートの匿名性を維持した上で、内容の違うアンケートを 2 回行うこと、アンケート結果をユニバーサルパスポート上に掲載することなどの案が出た。また、中間及び最終アンケートを最終アンケートは次年度の同じ授業のシラバスと一緒に掲載すれば、学生の授業選びの参考にもなるだろうという意見も出た。

2 日目はグループごとに学びのナビの改善点を考えた。私のいたグループでは、従来の学びのナビで途中にでてくるワークシートを一冊の冊子（ワークブック）として付録し、切り取り線をいれて切り取って使えるようにすることや、「レポートの書き方」の部分をもっと簡潔にするという意見が上がった。

個人的には、福島大学についてのページや学類紹介のページは良いと思った。新入生に知っていて欲しいことは、学びのスキルだけではないと思うからだ。

日頃、「授業評価アンケート」について不満を持っていたので、今回意見交換ができるとても良かった。学生だけでなく、職員の方や先生方を交えて話し合うことで、より中身の濃い話し合いができた。また、学びのナビの話し合いでは、事前に改訂版の提案があったので議論しやすく、よりよい意見を出すことができたのではないかと思う。昨年度も参加したが、親睦会の参加者が昨年よりも多く、学類や立場を超えて交流を深められたことはこの合宿に参加したもうひとつの収穫である。とても勉強になったし、有意義な経験ができた 2 日間であった。

人間発達文化学類 2 年 矢内美沙樹

この FD 合宿に参加している先生や教務課の方、学生は福島大学をよりよくしようという気持ちを持っていることが、話し合いや報告会でわかりました。

また、話し合い以外でも食事の時など、普段はあまり関わることのない先生や他学類の生徒と話せる良い機会にもなったのではないか と思います。それから、普段話しづらい教務課の方の中にも実は気さくな方がたくさんいることを知りました。

人数が足りないということで急遽参加したのでそれまではこの合宿のことも内容も全く知りませんでしたが、いろいろと勉強になり、良い経験になったかなと思います。

学生が持っている、福島大学や授業・学生生活についての思いや要望が反映されればいいなと感じました。

人間発達文化学類 2 年 シ レイ シヨン

今年の FD 合宿に出ていた学生たちはとても積極的な態度でいろんな意見を出して討論が激しかったです。去年と比べれば宿泊の日は短くなったのだが、全然時間が足りないと感じます

なかつたので、素晴らしいことだと思いました。あんなに近距離で先生たちといろいろしゃべることができ、お互いに理解を深めるのは FD 合宿しかないです。だから、参加して良かったと私は思いました。

経済経営学類 2 年 荒川 桃子

今年も FD 合宿に参加させていただき、ありがとうございました。とても有意義な 2 日間を過ごすことができました。特に FD 合宿に参加している学生というのは、総じて意識が高く良い刺激を受けることができると思います。自堕落になりがちな夏休みを過ごしてしまっても、後期が始まる直前の時期に FD 合宿で「大学での学び」について意見を出し合う機会があることで、自分のモチベーションを高めることができます。今年度も参加してみて改めてそのように感じた次第です。私の班では第一セッション、第二セッションで「D P」について意見を出し合ったのですが、結論としては「大学という場所を生かすも殺すも自分次第」ということになりました。大学生になると、学ぶことができる環境の利用の仕方、自分で学びたいことを選び、深めていくその過程を自分で組み立てる必要がでてきます。学力が振るわない学生に対してある程度の救済措置をとるべきだという意見もありますが、極論を言えば自己責任であるというところに落ちついてしまいます。やはり本人がやる気を持って大学生活を送ることが、4 年後に卒業する時「どのような能力を身につけて卒業することができたか」の違いを生むのだと思いました。私はこの合宿に参加することで、「大学での学びのかたち」について考えることができたので、この経験を生かしてこれから的学生生活も妥協することなく、卒業時に大学に入ってよかったと勉強面からも言えるようになりたいと思います。来年も機会があれば FD 合宿に参加したいです。

経済経営学類 2年 河野 雄飛

最初は正直 FD 合宿にあまり興味がありませんでした。私は口下手で、教職員と話す機会などめったにないので、うまく討論できないだろうと思ったからです。ですが今回無料で、温泉・宿泊ができるということで、参加を決定しました。イメージでは真面目に厳かな雰囲気で、教職員と生徒が話し合うと思っていたのですが、いざ始まってみると決してそういったものではなく、仲良く、ゆるい空気でフリートークがすすんでいったので、私も色々なことを意見したり、会話することができました。グループに分かれ、話し合った結果を10分～20分程度で発表しなければならないのですが、教職員の方々がうまく誘導してくれますし、何よりついさっき顔を合わせたばかりの面々と一緒に発表するのはとても新鮮で、楽しかったです。こういった先生と生徒での話しの場をもっとたくさん設けるべきだと感じました。私は決して真面目な生徒ではないのですが、そういった生徒でも気軽に行けるのが FD 合宿だと思います。今回の FD 合宿に参加できてほんとに良かったです。

経済経営学類 2年 鈴木 歩

私は今回友達に誘われてこの FD 合宿に参加しました。最初は私のような普段何も考えていないような者がこの合宿に参加してもあまり貢献できないのではないかと、正直乗り気ではありませんでした。しかし、実際グループで話し合いを始めてみると、以前から気にかかっていたこと、改善してほしいことなど色々な話が出て、スムーズに楽しく話し合いを進めることができました。さらに、普段はほとんど話す機会のない学長とお話することができ、とても良い体験となりました。

また、討論後の教員や教務課の職員との懇談会でも、いつもの講義のときとは少し違った雰囲気でお話をることができ、教職員の方々を身近に感じることができました。

今回の FD 合宿では普段の大学生活を振り返ったり教職員の方々と親交を深めるなどとても良い経験になりました。またこのような機会があれば参加したいと思います。

人間発達文化学類 1年 遠藤佑真

わずか2日間という短い期間の合宿でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。合宿を通してまず第一に感じたのは、教員、職員、学生の間で知らずしらずのうちに壁ができていたということでした。私自身も実際に教員・職員の方々を勝手に遠い人達だと思っており、話し合いの中で教員、職員、学生の三者の間でそれが偏見のようなものを持っていると気付きました。しかし、福島大学をよくするためにというテーマのもと、各々の立場から意見を出しつつ、互いに理解を深めることができました。学生という私の立場からすると、社会人から見た学生という存在に対してのイメージもわかり、勉強になりました。また、他学類や先輩方など普段は関わりがない人達とも知り合えたこともこの合宿の良かったところだと思います。何気なく参加した合宿でしたが本当に良い2日間を過ご

せました。

人間発達文化学類 1年 佐川太市

FD 合宿初日、私は「授業評価のための学生アンケート」について話し合いました。このテーマは、学生みんなが体験していることなので比較的話しやすかったと思います。私達のグループでは、かなり内容の濃い話し合いができたと思います。少人数なので意見を出しやすく、私が思っていたよりも次々と意見が出て十分の発表時間ではたりないくらいでした。その後も温泉にも入れて、食事の時には教員の方々や学長さんなどとも話ができました。普通にはなかなかない貴重な機会だと思います。二日目も学びのナビについて話し合うなど、福島大学のことについて話し合うのでやりがいを感じる話し合いができました。

人間発達文化学類 1年 芹澤泰祐

FD 合宿は教授や教務課の人と話すことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。最初はディスカッションにはとても不安がありました。しかし、教授や教務課の方たちがリードしてくれたので意見なども出しやすかったです。話し合いは限定的なテーマだったので広いことは話せませんでしたが、その分深いところまで話し合うことができました。教授たちもとても話しやすく大学教育を改善して行こうということが伝わってきました。物事を変えることは改善になるときもあれば改悪になってしまうこともあります。FD 合宿に参加した人たちは大学の中ではわずかな人たちです。もっと多くの人の意見が取り込めるように、多くの人がこの FD 合宿に参加してほしいと思います。

人間発達文化学類 1年 本田真子

入学してから何ヶ月くらいしか経っておらず、福島大学についての知識も浅かったが、福島大学をよりよくしたいためこの FD 合宿に参加した。また、大学の教授との親睦もはかれるということで、教授を身近に感じたかった私にはぴったりだと思ったことも参加した理由の一つだ。

FD 合宿での話し合いは 3~4 人の班だったので何も意見を言わない人がいなく、みんなで一つのテーマを内容を広げながら話し合った。私も少ない知識ながらも教授や先輩に交じって意見を言うことができた。さらに沢山新たな知識を得ることもできた。

発表では一発目で緊張したが、先輩と二人三脚で聞いてる人の笑いをとりながらうまく発表することができた。このようにこの合宿では発表の経験もすることができた。

また、このようなすばらしい経験を出来ただけではなく、温泉にも入ることができたし、おいしい料理も頂けた。

改めて FD 合宿を振り返ると自分にとってプラスになることばかりの経験ができた合宿だった。また来年もこのような機会があれば是非参加したい。

経済経営学類 1年 荒木 紗友理

FD合宿の存在を知ったのは、「大学で学ぶ」の講義の時でした。その後、掲示板に張り出してある募集要項を読み、普段関わることが少ない職員の方や教員の方と大学生活について話し合えるということを知り、興味を持ちました。

私の周りの友人や先輩は FD 合宿の存在を知っている人は少なく、また、知っていてもどんな事をするのかを知らない人がほとんどでした。FD 合宿に参加したことのある人も周りにおらず、当日の話し合いもどのような内容・雰囲気なのかが分からなかつたので合宿前はとても不安でした。

ですが、実際に FD 合宿へ行ってみると、想像していたような堅苦しい雰囲気はなく、職員・教員・学生の垣根を感じさせない、とても親しみやすい雰囲気でした。テーマを分けた話し合いも、時間を忘れるくらい密度の濃い内容だったと思います。普段はなかなか伝えることのできない学生の考えを直接伝えられ、職員や教員の方々の考えも聞くことができる。そして、大学生活について話し合うことで、自分のこれから大学生活を考える良いきっかけにもなります。2日間では足りないと感じるほど、本当に充実した合宿でした。この活動をもっと広く、多くの人に知ってもらえばと思います。また機会があれば、必ず参加させていただきます。今回は本当にありがとうございました。

共生システム理工学類 1年 小林友美

FD 合宿……この言葉を聞いたとき、いったいどのようなことをする合宿をするのか想像も出来ませんでした。その後、「福島大学をより良くする合宿」だと聞くことが出来ましたが、やはり具体的なことはよく分からず当日まで不安でした。しかし、当日その不安は無くなりました。一人一人が一つのテーマに真剣に取り組み意見を交わし合うなかで、教員、学生、事務の壁が無くなっていく感覚はとてもよい経験になりました。

私はこの合宿に参加したことによって、大学の環境向上に貢献したことはもちろんのこと、年代や立場の違う人達と話し合うことの大切さについても学べたように思います。また、このような機会に恵まれた時は積極的に参加していきたいと思います。

共生システム理工学類 1年 関原 瑞穂

FD合宿のチラシを見て、私がまず抱いた印象は堅苦しそうだな、という印象でした。参加をしたいと思っても、なかなかいく勇気もないし、そもそもチラシだけではどういうものかどうかというのも分からぬし、という事でそういうものがあると知ってはいたものの参加しようとは思いませんでした。

そんな時、ちょうど友人が一緒に参加してみないか、と声をかけてくれたので、友達と一緒になら気軽に行けるかな、なんていう結構軽い気持ちで、一時参加をあきらめていた私ですが、参加することに決めました。

事前に何回か教務課の方と連絡を取る中で「楽しむ」という言葉を何回も聞いたのです

が、まさに「楽しむ」ことができる合宿となりました。

大学を良くするために何をしたらいいのかという、一見堅苦しいテーマを扱う合宿ですが、教職員・学生の壁を越えて、思ったことを思ったまま話す、というのが日常生活ではない新鮮な感覚で、また話し合っていくなかで、大学を良くするためには自分自身の努力や考え方もまたよくしていくことが必要だ、と気づき、それが勉強や大学生活を充実させようという前向きな気持ちにもなりました。

大学を良くするために話し合っていたはずなのに、なんだか自分のためにもなってるなあ・・・なんていうお得な気分に少しホクホクしていました。

今回の FD 合宿は大学について深く考える機会だけでなく、なんとなく過ごしていた自分自身の大学生活を見直すとてもいい機会になったと思います。

余談ですが、話し合い以外の、例えばご飯とか、温泉とか、あれとかそれとか、春から貧相な一人暮らしをしてきた身には染みわたる特典（？）がとても嬉しかったです。（笑）

またこういう機会があるのであればぜひ参加させていただきたいと思っています。

楽しく、貴重な時間をありがとうございました！



FD宿泊研修のまとめと課題

総合教育研究センターFD部門 渡部芳栄

本年度の宿泊研修では、「福島大学はどう変わるべきか?」というとてつもなく大きなテーマを掲げました。サブテーマとしては、①教職員学生の協力の在り方について、②福島大学の学士課程教育について、③授業アンケートについての3つを設定しました。また、2日目には、全員で学びのナビについて話し合いました。FD宿泊研修には、教員9名(学長・副学長含む)・職員5名・学生22名の参加がありました。

壮大なテーマを掲げましたが、もちろん正解を見つけようなどとはまったく考えてはおりませんでした。この宿泊研修は「学生参加型FD」に位置付けられていて、学生の声を聞くというのが第1の目的でした。必ずしも学生の声を「受け入れる」という意味ではなく、「耳を傾ける」という意味です。もちろん学生の声の中には、学生自身の中に感想で述べている方もいるように、「もっと学生が努力してほしい」「まず自分の力でやってみては?」と思えるものもありましたが、ひとまずそれでいいのだと思います。一体どんなことを学生が考えているのか、その水準を把握する必要があるからです。だからこそ参加する教職員の皆様には、事前に「立場や年齢などの壁を取り払う」ように(つまり、頭ごなしに学生の声を否定しないように)強くお願いをしていたのですが、こちら側の意図の説明が足りず、ご迷惑とご面倒をおかけしたことは私自身の反省材料として残りました。

一方学生にとってみれば、「できるだけ自由に発言するように」「突拍子もないことでもOK」というメッセージを伝えていたため、報告文にもありましたように、最初は緊張していたものの、楽しく話し合いができたと評価してくれた学生が多かったです(しかし、感想・報告文は私宛に提出するようにしていたため、感想は謙虚に受け止めねばなりません)。自由に話し合いが出来るような雰囲気は、次年度以降も継続していきたいと考えています。

学生の参加者は22名と、結果的には比較的多く集まりましたが、申込み締切日(8月末)の段階では0人でした。昨年度の参加者に声をかけ、自治会に声をかけ、参加を表明した学生の友人に声をかけてもらって、ようやく集まったという経緯があります。集まったとは言え、22名というのは今年度5月1日現在の現員4,298人のうち1%にも満たない数字です。このささやかな活動をどのように次年度以降に伝えていくのか、かなり難しい課題です。計画を早く立て掲示を行う、ゼミで宣伝してもらう、教務システムでお知らせを流す、参加者の声を授業で伝えていく、など、あらゆる手段を講じなければなりません。大学がユニバーサル化し、「近年の学生の考えていることが分からなくなってしまった」という声が大きくなる中で、学生参加型FDの必要性は増すばかりです(繰り返しますが、無条件に受け入れるという意味ではありません)。教職員にとっても学生にとっても、より充実した宿泊研修となるよう、今後とも計画していきたいと思います。



7.各学類の FD 活動

平成 23 年度学類ごとの取り組み

2011年度 各学類におけるFDの取り組み

【人間発達文化学類】

- ①学習ポートフォリオについての出張調査（学類将来計画検討、教育課程委員会の合同）
- ②学習ポートフォリオ使用状況調査（教育課程委員会）
- ③教職履修カルテ使用状況調査（教育課程委員会）
- ④1年生から4年生の学習・生活アンケート調査
(教育課程、学生生活、学類将来計画検討の3委員会合同)
- ⑤学類1年生入学動機アンケート（教育課程、学類将来計画検討委員会の合同）
- ⑥人間発達文化研究科 新入生の教育・学習状況調査（教育課程委員会）
- ⑦人間発達文化研究科 研究発表状況および学業の成果についての調査（教育課程委員会）
- ⑧人間発達文化研究科修了研究中間報告会（前期・後期）実施状況調査（教育課程委員会）
- ⑨教養演習・基礎演習担当教員報告・交流会の実施（教育課程委員会）
- ⑩次年度オリエンテーションクラスアドバイザーおよび学習クラスアドバイザー対象説明会の実施（教育課程委員会）
- ⑪授業公開及び検討会（FDプロジェクト）

実施日：2012年1月17日（火）

授業提供者：初澤敏生教授

授業科目：子どもを取り巻く社会

- ⑫大型プリンター講習会の実施（FDプロジェクト）

実施日：2011年8月3日（水）

講師：安田俊広准教授

【行政政策学類】

1.学類において

- ①教養演習、専攻入門科目、専門演習担当者向けアンケートを実施、集計結果にもとづいて懇談会を実施し、改善すべき点を確認する。
- ②卒業生を対象とした「卒業時アンケート調査」の実施。
- ③授業公開と検討会

2011年度の実施状況：

- 2011/12/21（水）1限、「労働法」（担当：長谷川珠子准教授）
- 2012/1/19（木）1限、「地域史II」（担当：徳竹剛准教授）

2. 地域政策科学研究科

- ①新入生に対するアンケート調査の実施。
- ②院生協議会主催による修士論文の中間報告会の実施。
- ③修了生との懇談会。
- ④修了生に対するアンケート調査の実施。

【経済経営学類】

学類制移行後、リテラシー科目について2年生に対して第4セメスター時に、また、学類教育全般について卒業する学生に対して学類独自のアンケートを実施して集計し、専攻または講座ごとにそれぞれ所属する教員が集合して、アンケート結果を検討する会議を年度末に行っている。本年度は3月14日に同会議を開催する予定である。このアンケート結果とそれを検討した文書、及び関連会議の結果を「経済経営学類専門領域カリキュラムに関する日常的自己評価報告書」にまとめている。経済学研究科においては、研究科全般の満足度に関してのアンケートを全院生に対して実施している。授業公開は、巖成男先生担当「アジア経済論」（12月20日1限目）について実施した。

【共生システム理工学類】

1. オムニバス形式の授業での取り組み

専攻単位のオムニバス形式(一名の教員が一回ずつ担当)の授業では、担当教員が授業を行う度に全担当教員宛てメールで報告を行うことが慣例となっている。ここでは、授業内容や授業の進め方のほか、学生の様子や授業中の反応なども報告されている。これにより、授業内容の確認はもちろん、他教員の授業の進め方や授業中の学生の様子や反応なども参考になっている。学生の様子や反応は必修か選択かなどの授業の位置づけによっても変わるのはある程度予想できる。しかし、学生の入学年の違いによる変化は、現実に目の前にするまで分からないので、先に担当した教員からの報告がその後の別の教員の授業の進め方に反映されるという利点がある。

2. 実験授業におけるミーティング

新カリキュラムでは専攻を超えた教員が分担担当する学類全員必修の実験授業が始まっています。今年度で3年目を迎えた。この授業の立ち上がり時における内容に関して意見交換や、実施中においても実験授業の進め方に関する意見交換を行っている。そこで、この実

験授業に関してののみならず、関連した他の授業についても言及される。授業内容に関して話し合いをすること多いが、授業の進め方などFDに関する情報交換が行われる場にもなっている。もともと教員のFDについての意識が潜在的に高いために、その高い意識とさらに行動力を併せ持つ教員の影響が波及しやすいためと思われる。

3. 大学院におけるアンケート調査

大学院の授業に関するアンケート調査を行った。調査用紙の質問項目などに関しては、学類の授業アンケートに用いられているものを活用した。調査用紙配布に関しては、大学院研究科の中で、大学院の授業科目を担当している教員に対し、用紙を配布し、受講生に手渡しをする形を取った。

